Ⅲ. 自己資本の充実の状況

1. 自己資本の構成に関する開示事項

（単位：百万円、％）

項目	2024年度	2025年度
コア資本に係る基礎項目　（1）		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	33,283	33,629
うち、出資金及び資本剰余金の額	453	446
うち、利益剰余金の額	32,857	33,210
うち、外部流出予定額（△）	27	26
うち、上記以外に該当するものの額	△ 1	0
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	143	190
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	143	190
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額		
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額		
コア資本に係る基礎項目の額　（イ）	33,426	33,819
コア資本に係る調整項目　（2）		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	—	—
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	—	—
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	—	—
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
信用金庫連合会の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額　（ロ）	—	—
自己資本		
自己資本の額（（イ）－（ロ））　（ハ）	33,426	33,819
リスク・アセット等　（3）		
信用リスク・アセットの額の合計額	180,506	189,438
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額		
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 308	△ 304
うち、上記以外に該当するものの額		
マーケット・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	8,118	10,809
フロア調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額　（ニ）	188,624	200,247
自己資本比率		
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	17.72	16.88

（注）自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第21号）」に基づき算出しております。
なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

2. 定量的な開示事項

（1）自己資本の充実度に関する事項

（単位：百万円）

	2024年度		2025年度	
	リスク・アセット等	所要自己資本額	リスク・アセット等	所要自己資本額
イ．信用リスクアセット・所要自己資本の額合計	180,506	7,220	189,438	7,577
①標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	170,017	6,800	174,882	6,995
現金	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
国際開発銀行向け	100	4	100	4
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	50	2	31	1
地方三公社向け	20	0	20	0
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	36,651	1,466	37,443	1,497
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	0	0	—	—
カバード・ボンド向け	0	0	—	—
法人等向け（うち特定貸付債権を含む）	56,643	2,265	51,976	2,079
うち特定貸付債権向け	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	10,334	413	10,407	416
トランザクター向け	419	16	465	18
不動産関連向け	47,379	1,895	53,290	2,131
自己居住用不動産向け	15,024	600	14,751	590
賃貸用不動産向け	30,861	1,234	37,660	1,506
事業用不動産関連向け	871	34	—	—
その他不動産関連向け	622	24	878	35
ADC向け	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—
延滞等向け	2,012	80	2,172	86
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	384	15	330	13
取立未済手形	22	0	7	0
信用保証協会等による保証付	1,822	72	1,612	64
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—
株式等	2,521	100	3,860	154
上記以外	12,074	482	13,629	545
重要な出資のエクスポージャー	—	—	—	—
他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	514	20	511	20
信用金庫連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	—	—	—	—
特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー	6,025	241	7,360	294
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー	—	—	—	—
総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に係るエクスポージャー	—	—	—	—
上記以外のエクスポージャー	5,534	221	5,757	230
②証券化エクスポージャー	—	—	—	—
証券化 STC要件適用分	—	—	—	—
証券化 短期STC要件適用分	—	—	—	—
証券化 不良債権証券化適用分	—	—	—	—
証券化 STC・不良債権証券化適用対象外分	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—
③リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	10,624	424	14,703	588
ルック・スルー方式	10,624	424	14,703	588
マンデート方式	—	—	—	—
蓋然性方式（250％）	—	—	—	—
蓋然性方式（400％）	—	—	—	—
フォールバック方式(1250%)	—	—	—	—
④未決済取引	—	—	—	—
⑤他の金融機関等の対象資本等調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	△ 308	△ 12	△ 304	△ 12
⑥ＣＶＡリスク相当額を8％で除して得た額（簡便法）	173	6	157	6
⑦中央清算機関関連エクスポージャー	—	—	—	—
ロ．オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8％で除して得た額	8,118	324	10,809	432
BI	—		—	
BIC	649		864	
ハ．単体リスク・アセットの合計額及び単体総所要自己資本額（イ＋ロ）	188,624	7,544	200,247	8,009

（注）1．所要自己資本額＝リスク・アセット等×４％
2．「エクスポージャー」とは、資産（派生商品取引によるものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額等のことです。
3．「延滞等」とは、次の事由が生じたエクスポージャーのことです。
①金融再生法施行規則上の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に該当すること
②重大な経済損失を伴う売却を行うこと
③3か月以上限度額を超過した当座貸越であること
4．当金庫では、マーケット・リスクに関する事項は該当ありません。
5．当金庫は、標準的計測手法かつILMを「1」によりオペレーショナル・リスク相当額を算出しております。
6．単体総所要自己資本額＝単体リスク・アセットの合計額（単体自己資本比率の分母の額）×４％

III. 自己資本の充実の状況

(2) 信用リスクに関する事項（リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く）

イ. 信用リスクに関するエクスポージャー及び主な種類別の期末残高

（単位：百万円）

エクスポージャー区分 / 地域区分・業種区分・期間区分	信用リスクエクスポージャ期末残高								延滞エクスポージャー	
			貸出金、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフバランス取引		債券		デリバティブ取引			
	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
国内	231,888	225,811	167,568	167,936	63,740	57,227	579	647	5,771	5,624
国外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別合計	231,888	225,811	167,568	167,936	63,740	57,227	579	647	5,771	5,624
製造業	22,320	20,983	10,127	9,489	12,192	11,493	—	—	714	1,273
農業、林業	376	432	376	432	—	—	—	—	—	—
漁業	7	6	7	6	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	2	2	2	2	—	—	—	—	—	—
建設業	13,343	12,368	12,034	11,169	1,309	1,199	—	—	606	361
電気・ガス・熱供給・水道業	10,337	10,052	4,838	4,553	5,498	5,499	—	—	18	15
情報通信業	3,272	3,012	384	317	2,888	2,695	—	—	153	92
運輸業、郵便業	7,256	6,822	2,062	2,027	5,194	4,794	—	—	556	522
卸売業、小売業	13,242	13,238	10,143	9,739	3,098	3,498	—	—	861	623
金融業、保険業	21,361	21,180	10,183	10,135	10,597	10,397	579	647	—	—
不動産業	48,379	51,603	40,275	44,395	8,104	7,207	—	—	564	513
物品賃貸業	1,310	1,287	412	389	898	898	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	1,397	1,762	1,297	1,562	100	200	—	—	396	446
宿泊業	2,988	2,851	2,988	2,851	—	—	—	—	5	5
飲食業	3,194	2,883	3,194	2,883	—	—	—	—	498	491
生活関連サービス業、娯楽業	6,101	5,879	5,901	5,779	200	100	—	—	112	134
教育、学習支援業	588	541	588	541	—	—	—	—	1	2
医療、福祉	4,614	4,601	4,614	4,601	—	—	—	—	212	196
その他のサービス	6,665	6,949	6,665	6,949	—	—	—	—	172	153
国・地方公共団体等	22,826	17,309	9,169	8,066	13,657	9,242	—	—	—	—
個人	42,300	42,040	42,300	42,040	—	—	—	—	894	789
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
業種別合計	231,888	225,811	167,568	167,936	63,740	57,227	579	647	5,771	5,624
1年以下	16,314	16,869	13,238	13,919	2,495	2,302	579	647		
1年超3年以下	15,783	16,255	9,639	8,357	6,143	7,897	—	—		
3年超5年以下	18,188	25,162	9,929	14,866	8,259	10,296	—	—		
5年超7年以下	27,002	20,111	18,118	11,524	8,883	8,586	—	—		
7年超10年以下	33,164	29,811	24,369	24,515	8,794	5,296	—	—		
10年超	116,785	112,870	90,223	92,724	26,562	20,146	—	—		
期間の定めのないもの	4,649	4,729	2,048	2,028	2,600	2,700	—	—		
残存期間別合計	231,888	225,811	167,568	167,936	63,740	57,227	579	647		

（注）1. オフ・バランス取引は、デリバティブ取引を除く。
2.「延滞エクスポージャー」とは、次の事由が生じたエクスポージャーのことです。
①金融再生法施行規則上の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危機債権」、「要管理債権」に該当すること
②重大な経済的損失を伴う売却を行うこと
③3か月以上限度額を超過した当座貸越であること
3. 上記の「その他」は、裏付となる個々の資産の全部又は一部を把握することや、業種区分に分類することが、困難なエクスポージャーです。
4. CVAリスク及び中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。
5. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ロ. 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額については38ページの「貸倒引当金の内訳」を参照下さい。

ハ. 業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

（単位：百万円）

	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
					目的使用		その他					
	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
製造業	185	215	215	271	7	—	177	215	215	271	—	—
農業、林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
漁業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	63	234	234	68	13	179	50	55	234	68	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
情報通信業	35	35	35	—	—	35	35	—	35	—	—	—
運輸業、郵便業	193	190	190	184	7	11	185	178	190	184	—	—
卸売業、小売業	290	197	197	126	85	—	205	197	197	126	—	—
金融業、保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不動産業	299	293	293	277	0	—	299	293	293	277	—	—
物品賃貸業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学術研究、専門・技術サービス業	331	323	323	329	—	—	331	323	323	329	—	—
宿泊業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
飲食業	83	82	82	99	11	3	71	79	82	99	—	—
生活関連サービス業、娯楽業	3	11	11	15	—	—	3	11	11	15	—	—
教育、学習支援業	1	1	1	—	—	1	1	—	1	—	—	—
医療、福祉	9	25	25	38	—	0	9	25	25	38	—	—
その他のサービス	57	55	55	66	5	1	51	54	55	66	—	—
国・地方公共団体等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	249	194	194	184	15	8	233	185	194	184	—	—
合計	1,805	1,861	1,861	1,659	147	241	1,657	1,619	1,861	1,659	0	0

（注）1. 当金庫は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。
2. 業種別区分は、日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

ニ. 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオの区分ごとの内訳

（単位：百万円）

	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCF・信用リスク削減効果適用後			リスク・ウェイトの加重平均値（%）
	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	信用リスク・アセットの額	
	2024年度					
現金	2,601	—	2,601	—	0	0%
我が国の中央政府及び中央銀行向け	11,704	—	11,704	—	0	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	11,520	—	11,520	—	0	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	1,296	—	1,296	—	100	8%
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	903	—	903	—	50	6%
地方三公社向け	701	—	701	—	20	3%
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	71,491	—	71,491	—	36,651	51%
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	85,754	15,485	84,632	1,287	56,643	65%
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	17,305	30,234	16,415	1,564	10,334	55%
トランザクター向け	—	25,012	—	1,252	419	33%
不動産関連向け	71,732	—	71,348	—	47,379	66%
自己居住用不動産等向け	33,684	—	33,564	—	15,024	45%
賃貸用不動産向け	35,961	—	35,818	—	30,861	86%
事業用不動産関連向け	1,032	—	927	—	871	84%
その他不動産関連向け	1,053	—	1,038	—	622	59%
ADC向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	1,845	142	1,837	14	2,012	108%
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	443	—	443	—	384	87%
取立未済手形	111	—	111	—	22	20%
信用保証協会等による保証付	18,219	18	18,219	1	1,822	10%
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
株式等	2,508	—	2,508	—	2,521	101%
合計					157,942	

	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCF・信用リスク削減効果適用後			リスク・ウェイトの加重平均値（%）
	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	信用リスク・アセットの額	
	2025年度					
現金	2,029	—	2,029	—	—	0%
我が国の中央政府及び中央銀行向け	9,122	—	9,122	—	—	0%
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	9,243	—	9,243	—	—	0%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	1,296	—	1,296	—	100	8%
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	297	—	297	—	31	11%
地方三公社向け	700	—	700	—	20	3%
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	72,661	—	72,661	—	37,443	52%
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	77,801	13,169	76,677	1,131	51,976	66%
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	18,645	32,172	17,842	1,655	10,407	51%
トランザクター向け	—	27,015	—	1,379	465	34%
不動産関連向け	79,483	—	79,059	—	53,290	67%
自己居住用不動産等向け	33,776	—	33,633	—	14,751	44%
賃貸用不動産向け	44,151	—	43,961	—	37,660	85%
事業用不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
その他不動産関連向け	1,555	—	1,463	—	878	56%
ADC向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	1,940	147	1,933	14	2,172	111%
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	393	—	393	—	330	84%
取立未済手形	38	—	38	—	7	20%
信用保証協会等による保証付	16,120	18	16,120	1	1,612	10%
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
株式等	2,969	—	2,969	—	3,860	130%
合計					189,281	

（注）1.「CCF」とは、オフ・バランス取引の与信相当額を計算する際に使用する掛目（%）のことです。
2.「リスク・ウェイトの加重平均値（%）」とは、信用リスク・アセットの額をCCF・信用リスク削減手法適用後エクスポージャーのオン・バランスの額とオフ・バランスの額の合計額で除して算出した値のことです。

III. 自己資本の充実の状況

ホ. 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオの区分ごと並びにリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

（単位：百万円）

	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）													
	0%	10%	15%	20%	25%	30%	31.25%	35%	37.5%	40%	43.75%	45%	50%	56.25%
	2024年度													
現金	2,601	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	11,704	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	11,520	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	896	—	—	200	—	200	—	—	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	394	508	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	601	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	14,205	—	41,051	—	—	—	—	—	—	1,400	—
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	—	—	—	10,289	—	—	—	—	—	—	—	—	25,165	—
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,252	—	—
トランザクター向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,252	—	—
不動産関連向け	—	—	—	2,026	1,094	4,823	—	801	—	2,839	—	5,188	3,218	—
自己居住用不動産等向け	—	—	—	2,026	1,094	3,443	—	—	—	2,839	—	—	3,218	—
賃貸用不動産向け	—	—	—	—	—	1,380	—	801	—	—	—	5,188	—	—
事業用不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	503	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	18,221	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	27,720	18,730	—	26,932	1,094	46,074	—	801	—	2,839	—	6,440	30,287	—

	60.0%	62.5%	70%	75%	80%	85%	90%	93.75%	100%	105%	110%	112.5%	130%	150%	250%	400%	その他	合計
現金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,601
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11,704
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11,520
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,296
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	903
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	701
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	699	5,295	—	8,839	71,491
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	—	—	—	1,797	—	25,006	—	—	8,293	—	—	—	—	5,311	—	—	9,475	85,340
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	14,900	—	—	—	—	1,827	—	—	—	—	—	—	—	—	17,980
トランザクター向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,252
不動産関連向け	3,357	—	21,286	3,351	—	—	45	—	—	22,752	533	—	—	28	—	—	—	71,348
自己居住用不動産等向け	—	—	20,938	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33,564
賃貸用不動産向け	2,319	—	—	3,347	—	—	—	—	—	22,752	—	—	—	28	—	—	—	35,818
事業用不動産関連向け	—	—	348	—	—	—	45	—	—	—	533	—	—	—	—	—	—	927
その他不動産関連向け	1,038	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,038
ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	—	—	—	—	—	—	—	—	359	—	—	—	—	988	—	—	—	1,851
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—	—	—	443	—	—	—	—	—	—	—	—	443
取立未済手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	111
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	18,221
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,508	—	—	2,508
合計	3,357	—	21,286	20,049	—	25,006	45	—	10,924	22,752	533	—	—	7,028	7,803	—	18,315	298,025

	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）													
	0%	10%	15%	20%	25%	30%	31.25%	35%	37.5%	40%	43.75%	45%	50%	56.25%
	2025年度													
現金	2,029	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	9,122	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	9,243	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	896	—	—	200	—	200	—	—	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	97	200	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	600	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	13,684	—	43,445	—	—	—	—	—	—	100	—
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	507	—	—	11,809	—	—	—	—	—	—	—	—	22,888	—
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	6,739	—	—	—	—	—	—	—	759	1,267	—
トランザクター向け	—	—	—	620	—	—	—	—	—	—	—	759	—	—
不動産関連向け	—	5	—	9,392	1,065	5,298	—	1,201	—	2,296	—	5,256	8,794	—
自己居住用不動産等向け	—	2	—	9,392	1,065	3,155	—	—	—	2,296	—	—	8,794	—
賃貸用不動産向け	—	2	—	—	—	2,142	—	1,201	—	—	—	5,256	—	—
事業用不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	—	—	—	81	—	—	—	—	—	—	—	—	461	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	42	—	—	—	—	—	—	—	—	57	—
取立未済手形	—	—	—	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	16,121	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	22,499	16,327	—	42,088	1,065	48,944	—	1,201	—	2,296	—	6,015	33,570	—

	60.0%	62.5%	70%	75%	80%	85%	90%	93.75%	100%	105%	110%	112.5%	130%	150%	250%	400%	その他	合計
現金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,029
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,122
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,243
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,296
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	297
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	700
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	699	5,595	—	9,135	72,661
第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	—	—	—	1,495	—	20,803	—	—	6,591	—	—	—	—	4,711	100	—	8,377	77,285
特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向け及び個人向け	—	—	—	10,588	—	—	—	—	143	—	—	—	—	—	—	—	—	19,497
トランザクター向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,379
不動産関連向け	5,276	—	8,923	4,687	—	—	—	—	—	26,836	—	—	—	23	—	—	—	79,059
自己居住用不動産等向け	—	—	8,923	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33,633
賃貸用不動産向け	3,813	—	—	4,683	—	—	—	—	—	26,836	—	—	—	23	—	—	—	43,961
事業用不動産関連向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他不動産関連向け	1,463	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,463
ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	—	—	—	—	—	—	—	—	364	—	—	—	—	1,040	—	—	—	1,947
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—	—	—	292	—	—	—	—	—	—	—	—	393
取立未済手形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16,121
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,969	—	—	2,969
合計	5,276	—	8,923	16,770	—	20,803	—	—	7,393	26,836	—	—	—	6,474	8,665	—	17,513	292,665

III. 自己資本の充実の状況

ヘ. リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

（単位：百万円）

2024年度				
告示で定めるリスク・ウェイト区分（%）	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重平均値	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）
	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目		
40%未満	133,573	6,868	10%	134,124
40%～70%	58,146	19,373	10%	58,742
75%	15,651	4,471	11%	15,046
80%	—	—	—	—
85%	24,956	2,244	16%	24,419
90%～100%	9,360	3,420	11%	9,328
105%～130%	23,366	—	—	23,282
150%	6,968	26	10%	6,962
250%	7,803	—	—	7,803
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
その他	18,315	9,475	—	18,894
合計	298,141	45,880	11%	298,605

（単位：百万円）

2025年度				
告示で定めるリスク・ウェイト区分（%）	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重平均値	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）
	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目		
40%未満	131,078	6,941	10%	131,617
40%～70%	55,496	20,921	10%	56,082
75%	17,423	4,340	11%	16,770
80%	—	—	—	—
85%	22,068	2,848	11%	21,311
90%～100%	7,155	2,046	15%	7,393
105%～130%	26,865	—	—	26,836
150%	6,479	31	10%	6,474
250%	8,665	—	—	8,665
400%	—	—	—	—
1,250%	—	—	—	—
その他	17,513	8,377	—	18,036
合計	292,745	45,507	10%	293,188

（注）「CCFの加重平均値（%）」とは、CCFを適用した後及び信用リスク削減手法の効果を勘案する前のオフ・バランス取引のエクスポージャーの額を、CCF・信用リスク削減手法適用前エクスポージャーのオフ・バランスの額に掲げる額で除して算出した値のことです

（3）信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

（単位：百万円）

信用リスク削減手法 / ポートフォリオ	適格金融資産担保		保証		クレジット・デリバティブ	
	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	2,218	656	40,664	39,918	—	—

（4）派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーは除かれるため該当数字はありません。

（5）証券化エクスポージャーに関する事項

当金庫は、証券化取引を行っていません。

（6）出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

イ. 貸借対照表計上額及び時価等

（単位：百万円）

区分	2024年度		2025年度	
	貸借対照表計上額	時価	貸借対照表計上額	時価
上場株式等	2,343	2,343	3,583	3,583
非上場株式等で時価のあるもの	—	—	—	—
非上場株式等で時価のないもの	1,461	—	1,461	—
合計	3,805	2,343	5,044	3,583

ロ. 出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

（単位：百万円）

	2024年度	2025年度
売却益	82	29
売却損	30	1
償却	—	—

（注）損益計算書における損益の額を記載しております。

ハ. 貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2024年度	2025年度
評価損益	319	954

ニ. 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

（単位：百万円）

	2024年度	2025年度
評価損益	—	—

（7）リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

（単位：百万円）

	2024年度	2025年度
ルック・スルー方式を適用するエクスポージャー	10,624	14,703
マンデート方式を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式（250%）を適用するエクスポージャー	—	—
蓋然性方式（400%）を適用するエクスポージャー	—	—
フォールバック方式（1250%）を適用するエクスポージャー	—	—

（8）金利リスク関する事項

（単位：百万円）

IRRBB：金利リスク

項番		ΔEVE		ΔNII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	6,701	9,132	—	—
2	下方パラレルシフト	5	—	266	—
3	スティープ化	6,071	8,298		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	6,701	9,132	266	—
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	33,819		33,426	

III. 自己資本の充実の状況

3. 定性的な開示事項

1. 自己資本調達手段の概要

当金庫の自己資本は、出資金及び利益剰余金等により構成されています。なお、当金庫の自己資本調達手段は普通出資（発行主体：当金庫）のみであり、コア資本に係る基礎項目に算入された額は446百万円です。

2. 自己資本の充実度に関する評価方法の概要

自己資本の充実度に関しまして、自己資本比率は国内基準である4%を上回っており、経営の健全性・安全性を充分保っております。また、当金庫は、各エクスポージャーが一分野に集中することなく、リスク分散が図れていると評価しております。

一方、将来の自己資本充実策については、年度ごとに掲げる収支計画に基づいた業務推進を通じ、そこから得られる利益による資本の積上げを第一義的な施策として考えております。尚、収支計画については、貸出金計画に基づいた利息収入や市場環境を踏まえた運用収益など、足元の状況を十分に踏まえた上で策定された極めて実現性の高いものであります。

3. 信用リスクに関する項目

(1) リスク管理の方針及び手続きの概要

信用リスクとは、取引先の財務状況の悪化などにより、当金庫の資産の価値が減少ないし消失し、損失を受けるリスクのことをいいます。

当金庫では、信用リスクを当金庫が管理すべき最重要のリスクであるとの認識の上、安全性、公共性、流動性、成長性、収益性の5原則に則った厳正な与信判断を行うべく、広く役職員に理解と遵守を促すとともに、信用リスク管理を徹底しています。

信用リスクの評価は、小口多数取引の推進によるリスク分散の他、与信ポートフォリオ管理として、信用格付別や自己査定による債務者区分別、業種別、さらには与信集中によるリスクの抑制のため大口与信先の管理など、さまざまな角度からの分析に注力しております。

個別案件の審査・与信管理にあたりましては、審査管理部門と営業推進部門を互いに分離し、相互に牽制が働く体制としております。さらに、経営陣による各種委員会等を定期的に開催し、信用リスク管理・運営における重要事項を審議しています。信用コストである貸倒引当金は、「自己査定基準」及び「償却・引当基準」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに算出しております。一般貸倒引当金にあたる正常先、要注意先、要管理先については、債務者区分ごとの債権額にそれぞれ貸倒実績率に基づいた予想損失率を乗じて算出しております。また、個別貸倒引当金に関しては、破綻懸念先、実質破綻先及び破綻先ともに、優良保証、優良担保を除いた未保全額に対して貸倒実績率に基づいた予想損失率を乗じて算出しております。尚、それぞれの結果については監査法人の監査を受けるなど、適正な計上に努めております。

(2) リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関

リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関は以下の4つの期間を採用しています。なお、エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関の使い分けは行っておりません。

・株式会社格付投資情報センター（R&I）
・株式会社日本格付研究所（JCR）
・ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（Moody's）
・スタンダード・アンド・プアーズ・レーティング・サービス（S&P）

4. 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続きの概要

当金庫は、リスク管理の観点から、取引先の倒産や財務状況の悪化などにより受ける損失（信用リスク）を軽減するために、取引先によっては、不動産等担保や信用保証協会保証による保全措置を講じております。ただし、これはあくまでも補完的措置であり、資金使途、返済原資、財務内容、事業環境、経営者の資質など、さまざまな角度から判断を行っております。

また、判断の結果、担保又は保証が必要な場合には、お客さまへの十分な説明とご理解をいただいた上でご契約いただく等、適切な取扱いに努めております。

バーゼルIIIにおける信用リスク削減手法として、当金庫が扱う主要な担保には、預金積金や上場株式等があり、担保に関する手続きについては、金庫が定める「融資業務取扱規程」や「不動産担保評価基準」等により、適切な事務取扱い並びに適正な評価・管理を行っております。

一方、当金庫が扱う主要な保証には、政府保証と同様の信用度を持つ福岡県信用保証協会、金融エクスポージャーとして適格格付機関が付与している格付により、信用度を判定するしんきん保証基金等があります。

また、お客さまが期限の利益を失われた場合には、全ての与信取引の範囲において、預金相殺等をする場合がありますが、金庫が定める「融資業務取扱規程」等により、適切な取扱いに努めております。尚、信用リスク削減手法の運用に伴う信用リスクの集中に関しては、特に業種やエクスポージャーの種類に偏ることなく分散されております。

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

リスク・ウェイトのみなし計算が適用されたエクスポージャーは除かれるため該当数字はありません。

6. 証券化エクスポージャーに関する事項

当金庫では、証券化取引を行っていません。

7. CVAリスクに関する事項

(1) CVAリスク相当額の算出に使用する手法の名称及び各手法により算出される対象取引の概要

CVAリスク相当額は「簡便法」により算出しており、主に派生商品取引が対象となります。

(2) CVAリスクの特性及びCVAに関するリスク管理態勢の概要

CVAリスクは、主に派生商品取引の相手方の信用力や市場要因等によって影響を受けます。

当金庫は、半期毎に自己資本比率の算出において、CVAリスク相当額を算出するとともに、前半期の算出値と比較し、その変化を確認しております。

なお、CVAリスクのヘッジは行っておりません。

8. オペレーショナル・リスクに関する事項

(1) リスク管理の方針及び手続きの概要

当金庫では、オペレーショナル・リスクを「内部プロセス・人・システムが不適正であることもしくは機能しないこと、または外生的事象が生起することから当金庫に生じる損失にかかるリスク」と定義しています。当金庫は、オペレーショナル・リスクについて、事務リスク、システムリスク、法務リスク、人的リスク、有形資産リスク、風評リスクの各リスクを含む幅広いリスクと考え、管理体制や管理方法に関するリスク管理の基本方針をそれぞれのリスクについて定め、確実にリスクを認識し、評価しております。

リスクの計測に関しましては、標準的計測手法を採用することとし、態勢を整備しております。また、これらリスクに関しましては、リスク管理委員会等、各種委員会におきまして、協議・検討するとともに、必要に応じて経営陣による、理事会等において、報告する態勢を整備しております。

(2) オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称等

当金庫では標準的手法を採用しております。

① BIの算出方法

BI（事業規模指標）の額は、ILDC（金利要素）、SC（役務要素）及びFC(金融商品要素)を合計して算出しています。

② ILMの算出方法

ILM(内部損失乗数)の値に「1」を用いる方法を採用しております。

③ オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、BIの算出から除外した事業部門の有無

該当ございません。

④ オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、ILMの算出から除外した特殊損失の有無

該当ございません。

9. 銀行勘定における出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続きの概要

上場株式、上場優先出資証券、株式関連投資信託にかかるリスクの認識については、時価評価及び30%以上下落した場合は資金担当役員が、常務会に報告しております。一方、非上場株式、政策投資株式、その他の出資金については、常務会など、経営陣の決定に基づき適正な運用・管理を行っております。

また、リスクの状況は、財務諸表や運用報告を基にした評価による定期的なモニタリングを実施するとともに、その状況については、適宜、経営陣に報告を行い、適切なリスク管理に努めております。なお、当該取引にかかる会計処理については、当金庫が定める「有価証券会計処理基準」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」に従った、適切な処理を行っております。

III. 自己資本の充実の状況

10. 銀行勘定における金利リスク（マーケット・リスク相当額の算出の対象となっているものを除く）に関する事項

イ. リスク管理の方針及び手続きの概要

金利リスクとは、市場金利の変動によって受ける資産価値の変動や将来の収益性に対する影響を指しますが、当金庫においては、双方ともに定期的な評価・計測を行い、適宜、対応を講じる態勢としております。

具体的には、一定の金利ショックを想定した場合の金利リスクや金利更改を勘案した期間収益シミュレーションによる収益の影響度等の計測を行い、必要に応じて理事会等へ報告を行うなど、資産・負債の最適化に向けたリスク・コントロールに努めております。

ロ. 金利リスクの算定方法の概要

開示公示に基づく定量的開示の対象となるΔEVE及びΔNII（銀行勘定の金利リスクのうち、金利ショックに対する算出基準日から12ヶ月を経過する日までの間の金利収益の減少額として計測されるものであって、開示公示に定められた金利ショックにより計算されるものをいう。以下同じ。）並びに金庫がこれらに追加して自ら開示を行う金利リスクに関する以下の事項。

①	流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期	1.25年
②	流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期	5年
③	流動性預金への満期の割当手方法及びその前提	金融庁が定める保守的な前提
④	固定金利算出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提	
⑤	複数の通貨の集計方法及びその前提	通貨別に算出した金利リスクの正値のみ合算し、通貨間の相関は考慮しておりません。
⑥	スプレッドに関する前提	リスクフリー・レートの金利ショック幅と割引金利の金利ショック幅を同一と見なしており、割引金利の相関やスプレッドは考慮しておりません。
⑦	内部モデルの仕様など、ΔEVE及びΔNIIに重大な影響を及ぼすその他の前提	該当事項はありません。
⑧	前事業年度末の開示からの変動に関する説明	金利リスクの算定に係る前提に変動はありません。
⑨	計画値の解釈や重要性に関するその他の説明	当期の重要性テスト（金利リスク（ΔEVE）／自己資本の額）の結果は、基準値である自己資本に与える影響について、定期的に検証及び管理を実施しております。